

◆オンライン開催◆
Zoom Webinar

地域共創形成プロジェクト

★視聴無料★
6/19(月)14:00
までに要事前申込

— 那覇市真和志南地区(国場・仲井真・上間)の「観光フットパス」に向けた取り組み —

2023年

6月21日 水
16:30~17:30

開催趣旨

沖縄で観光というと首里城や国際通り等定番の場所に目が向けられがちですが、私たちが普段生活している地元地域においても「沖縄的」なものも多く存在します。本プロジェクトでは、体験しながら地域を知る試みとして、イギリス発祥の「フットパス」マップを地域の方々と協力しながら作成する取り組みを行っています。本講座では、歴史、健康、学校教育等の専門家からの解説を交えながら、本プロジェクトの概要紹介を行い、地域共創の現場を知っていただく機会としていただければと思います。多くの皆様のお申込をお待ちしております。



プログラム

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 16:30-16:35 登壇者紹介 | 17:15-17:20 研究員コメント(嘉数) |
| 16:35-17:05 プロジェットの概要説明(伊藤) | 17:20-17:25 研究員コメント(前田) |
| 17:05-17:15 協力学生によるコメント | 17:25-17:30 質疑応答、終了 |

登壇者

いとう たけし
伊藤 丈志 (沖縄大学 国際コミュニケーション学科 准教授)
2008年度イギリス研修中にフットパスを体験し、帰国後に沖大生協学生委員とともにフットパスマップ作りを開始。しばらく中断の後、今回のプロジェクトで再開。現在、地域研究所副所長。専門は社会言語学、語用論。



まえだ しゅうこ
前田 舟子 (沖縄大学 経法商学科 准教授)
専門は琉球史・中琉交流史。首里城友の会運営委員として、一般向けの琉球史講座や史跡巡見を担当している。最近は、琉球王国時代に真和志間切の中心であった那覇市字上間の史跡を巡見している。



かかず けんご
嘉数 健悟 (沖縄大学 福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻 教授)
本プロジェクトでは、健康運動の分野から効果の検証を担当。これまで地域子どもたちを対象とした運動教室や夏休みのラジオ体操等を学生とともに企画、実施。専門は教師教育学、保健体育科教育学。



【2023年度 沖縄大学全学研究プロジェクト班】

研究概要

研究名：地域共創形成プロジェクト
—那覇市真和志南地区との「観光フットパス共同作成を通じて」—
対象地域：那覇市真和志南地区(国場・仲井間・上間・長田・寄宮・与儀)
研究内容：沖縄大学周辺地域の歴史・文化等を堪能できる観光フットパスを、地域住民、沖縄大学学生、教職員など背景の異なる者たちが共同作成することを通じて、地域の持つ魅力を再発見、発信しながら交流できる仕組みを構築する。
研究協力：那覇市人材育成支援センター まーいまいNaha ほか



※講座終了後、アンケート(メールで回答フォームURLをお送りします)への回答にご協力ください。

◆◆◆「地域研究公開講座」始めました！◆◆◆

本学には、本学教員及び特別研究員、その他の研究協力者で構成された研究班があります。それぞれ、地域のお役に立ちたいという想いで地域研究に取り組んでおり、本研究活動をより地域に開かれたものとしていくことを目的とし、今年度から、全ての研究班が地域研究公開講座を実施していきます。研究班活動の意義や対象とする課題等について、皆様に分かりやすくご紹介させていただきます。今年度は全10班の地域研究公開講座を予定しています。(裏面参照) ★どうぞお楽しみに！★

申込先【Googleフォーム QRコード】

●氏名・連絡先・所属等を入力の上送信してください。
Wi-Fi等ネット接続ができる環境で、PC・スマホ・タブレット等から視聴できます。お申し込みされた方には、講座日の1週間前までに、接続先の情報(ログインURL)をメールでご案内します。案内メールが届かない場合は前日14時までに沖縄大学地域研究所までお問い合わせください。



問い合わせ先：沖縄大学 地域研究所
住所：沖縄県那覇市国場405番地
沖縄大学アネックス共創館2階
窓口：平日8:30~17:15(12:00~13:00 閉室)
Tel:098-832-5599
Mail:chiken-staff@okinawa-u.ac.jp

2023年度 沖縄大学地域研究公開講座 開催予定一覧 (6月1日現在)



※下記9月以降の開催日時は現在調整中です。詳細が決まりましたら本学HPよりご案内いたします。



	開催予定日	研究代表者名 (所属学科)	研究名	研究内容要約
1	6/21(水) 16:30~17:30	伊藤 丈志 (国際コミュニケーション学科)	地域共創形成プロジェクト —那覇市真和志南地区との「観光フットパス」共同作成を通じて—	本学周辺地域の歴史、文化等を堪能できる観光フットパスを、地域住民、本学学生・教職員など背景の異なる者達が共同作成することを通じて、地域の持つ魅力を再発見、発信しながら交流できる仕組みを構築する。
2	9月	系数 哲 (経法商学科)	沖縄を中心にした「自然災害」と地理学・労働法・基地問題・訴訟リスクの交錯にかかわる総合的研究	沖縄本島および離島をベースにしながら、様々な災害概念を対象として幅広く地域研究を行い、「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる文理融合の学際的・総合的研究を進めていく。
3	10月	島田 尚徳 (経法商学科)	日本の周縁地域における「まちひとしごと創生」と観光振興	多様なアクターの参加によって実施されている日本の周縁地域における地域活性化の実相を「まち・ひと・しごと創生」と関連付けられた施策—特に観光振興—の分析を通して多面的に明らかにすることを目的としている。
4		西章 (福祉文化学科)	沖縄大学「いのちの未来の平和学」プロジェクト	2022年2月末のウクライナ戦争から始まった国際秩序の揺らぎもあり、沖縄大学が「平和と反戦」を強く発信していくような流れを作っていく、〈学び舎〉として平和教育を実践していくことを目的としている。沖縄大学の有志が集まって月一回のペースで地域市民の方々にも門戸を広げ「戦争と平和」「人類と人権」「非暴力と自由」「差別と不寛容」「本当の意味でのSDGs」などについてのフォーラムやワークショップを企画運営し、沖縄大学から「平和と反戦」の実践活動を発信していく。
5	11月	盛口 満 (こども文化学科)	こどもと自然 —離島地域における教育環境と大学の関わり—	地理的不利な離島においては、教育の手段も制限され、学校教育以外の出会いの場(教的な場)も少ない。研究班では大学による出前授業を実施することにより、地理的に不利な教育環境をどの様に補完できるかを考える。また、こうした取り組みを持続的に実施するための課題と解決策を探る。
6	12月	富山 侑美 (経法商学科)	沖縄の家族観・死生観にみる臓器提供に関する法と政策 —より多くの命を救うために—	我が国で独自性を有する沖縄の家族観・死生観が、臓器提供の際に与える影響を調査した上で、ドナー不足により救えない命があるという課題を、沖縄の地域性からいかに解決していくか、法的・政策的観点から考察する。
7	1月	下地 みさ子 (管理栄養学科)	食品ロス削減食育研究:食べる力、生きる力、取り組む力	従来の食育の概念「食べる力、生きる力」に加え、食品ロス削減に「取り組む力」を養えるような効果的な食育方法を開発することを目的とし聞き取り調査等を行う。開発したツールを用い食育を行うと共に食品ロスに対する意識調査や健康に関する身体的調査あるいは健康意識調査を計画する。
8		宮良 恵美 (管理栄養学科)	島ゴショウの6次産業化による地域づくり —香り高い「沖大ピーパーズ(仮称)」の商品開発を起点とするコレクティブ・インパクトを目指して—	香り高いピーパーズの製法を研究し標準化に取り組むとともに、地域で多様な人々が関わりうる生産から販売までのワーキングネットを構築することにより、地域共創型6次産業化商品という新たな価値を社会に提示する。
9	2月	成定 洋子 (経法商学科)	戦後沖縄の相談員をめぐる仕事と労働に関する基礎的研究	戦後沖縄の相談員をめぐる仕事や労働に関わる諸問題にジェンダーと人的資源管理の視点から取り組むことで、学際・実践的労働問題解決ネットワークを構築、沖縄の相談員の仕事・労働に関わる課題や可能性を開示する。
10		若林 千代 (経法商学科)	沖縄における地域史とオーラルヒストリーの方法 —戦後史研究の実践から問い直す—	沖縄戦後史研究では、オーラルヒストリーの方法と実践に対する学術的検証は未だ十分とはいえない。本研究では、オーラルヒストリーの実践を通じて研究史を再検証しつつ、地域史の新たな方法を探究する。